



発行責任者 西川 晃二

【校長室より】

「スマホ」が我が家にやってきた

今年の正月元旦を境に、「聖者」ならぬスマホが我が家にやってきました。娘2人にスマホを、そして両親にはガラ系携帯をというネット環境が完成。次女の場合、高校3年末にスマホ入学、長女は大学生2年にして初めてのスマホ体験となりました。スマホの害を見聞くにつけて心配をしていましたが、大学ではLINEでの連絡ごとが多いからと、愚妻の強い勧めでの購入でした。さて10ヶ月後の現在、特に次女はスマホ中毒どっぷり、リビングで、トイレでスマホ、ベッドでスマホ、果てはお風呂までスマホを持ち込む始末に相成りました。单身赴任故、日頃の様子を直接うかがい知ることができないのですが、妻の申すことには上記の通りのようです。さすがの妻もやっと自分の愚行に気づいた次第。しかしながら「あとの祭り」状態と相成っております。

スマホの便利さと害悪。どちらに軍配をあげるべきかは正直わかりません。先日ある人のブログを見ていて、ちょっと、いや大いに気にかかることがありました。かなり長い引用になりますが以下の通りです。元ネタはニューヨーク・タイムズやAERA等のようです。

〈あるブログから〉

最近、驚いたニュースといえばコレ！

アップルを経営していたころの故スティーブ・ジョブズ氏は、子供達に対してはローテクな親だったというニュース。

ジャーナリストの質問

「お宅のお子さんたちは、iPadをさぞ気に入っているのでしょうか」。に対してこう答えたという。「うちの子どもたちは、まだ使ったことがないんだよ。家では、子どもたちがテクノロジーを使う時間を制限しているからね」誰もがジョブズの自宅は、ハイテクマニアの天国みたいな所だと想像していたが実はそれとは似ても似つかないと言いつつ放ったという。

ジョブズだけではない。テクノロジー会社の最高経営責任者やベンチャー投資家達も、彼らは子どもたちがスクリーンに向かう時間を厳しく制限し、学校がある平日はすべてのデバイスの使用を禁じていたという。週末にだけ、わずかの時間を与えるというケースも多く見られた。結局のところ、テクノロジーのCEOたちは、一般的な人たちが知らないことを分かっている。

現在、無線操縦飛行機メーカーの最高経営責任者であるクリス・アンダーソンは、自宅にあるすべてのデバイスに対し制限時間を設け、親が管理するようにしているという。彼は6歳から17歳までの5人の子どもたちについてこう語った。

「子どもたちは、私と妻のことを、ファシストで、テクノロジーについて過剰な心配をしていると非難する。」

「そして、同じような規則がある友だちなんて、ひとりもないと言う。」

「でもこうするのは、私たちがテクノロジーの危険をこの目で見てきたし、私自身が経験しているからです。子どもたちには、そういうことが起こってほしくはないですからね」。危険というのは特に10歳以下の子供で最も中毒になりやすいという。10歳以下の子どもは、もっとも中毒になりやすいので、親たちは線引きをして、平日にこれらのデバイスを使うことを禁じている。そして週末には、30分から2時間までを限度に、iPadやスマートフォンの使用を許可する。10歳から14歳の子どもに対しては、学校のある日の夜にもコンピューターの使用を許可するが、それは宿題のためだけだ。テクノロジー関係の会社などで働く親の多くは、子どもが14歳になるまで待つ。そして、これらのティーンエージャーたちは、電話をかけたりテキストを送ったりはできるが、16歳になるまでデータプランは与えられない。いずれにせよ、テクノロジー関連の親たちの間には、ひとつの共通したルールがある。

(次のページに続く)

「一番のルールは、寝室にスクリーンを持ち込まないこと。これは例外なしです」

UCLA大学の研究者たちが最近発表した研究によると、数日間、電子機器利用を禁止しただけで、子どもたちの社交スキルがまたたくまに向上したそう。「ステーキは、毎晩キッチンにある大きな長いテーブルで必ず夕食をとり、本や歴史、その他あらゆることについて話していました。」

「iPadやコンピューターを取り出す者は誰もいませんでしたよ。彼の子どもたちが、デバイス中毒になっている様子は、まったくみられませんでした」

オクラホマ大学およびオクラホマ州立大学の研究チームは6～11歳の子ども2万4167人について、食生活、学業成績、社会性に関する分析を行った。その結果、家族そろって食事をする頻度が高い子どもほど、学校での集中力、積極性が高く、社会性がよく身につく確率が高いこと、学業成績も良くなる傾向にあることが分かったという。また、そのような家庭の子どもは10代になってからトラブルを起こす確率が低くなることも分かった。

毎日、日課として皆で食事を取ることで、「あなたたちをしっかりとサポートしている」という雰囲気の中で親が子どもに接し、行動を観察することで、幼少期の子どもに安定感がもたらされる。こうしたプラスの効果を期待するには、週4回以上は家族そろって食事を取ることが重要。みんなで同じものを食べておいしい！というのは体にとっても良いという。結局普通の親達はこれとは反対で、子どもたちは、昼夜を問わずタブレットやスマートフォン、そしてコンピューターの白熱光を浴び放題という状況。10歳以下の子供達が最も中毒になりやすいためテクノロジーで働く親は14歳から与えるという点と寝室にはもちこませないという二点は一般の親も是非心したい。

テクノロジーのCEOたちは、一般的な人たちが知らないことを実は一番わかっていた。子供は生身の親の愛情と心配りがなによりも大切だということを……。

さて、皆さんいかが思いますか。かつて手塚治虫の「鉄腕アトム」に子ども達がこぞって熱中した昭和の時代。当時の教育関係者、教育ママゴン達がマンガ排斥運動を展開しましたが、今となっては、それは杞憂に過ぎませんでした。スマホもそれだよ。ということであれば、良いのですが。先日も熊本の高校生がLINEをきっかけにいじめに発展。ついには、それが原因で自殺したのでは？という報道がありました。身近な危機が迫っていることにもっと敏感にならねばとは思いますが、妙案が浮かばぬのが現状です。

がんばらんば国体剣道競技の補助

10月12日から始まったがんばらんば国体の剣道競技（10月18日～21日）で2年生が大会運営補助として活動をしました。朝から夕方までの活動で大変でしたが、無事大会を終えることができました。生徒の送り迎えなどご協力ありがとうございました。



芸術鑑賞会

10月8日（水）福江文化会館にて芸術鑑賞会が行われ、五島市木場町出身のシンガーソングライターである江頭つとむさんにコンサートをして頂きました。五島高校出身でもある江頭さんは、高校生のときの思い出話を交えながら、音楽とトークで生徒たちに多くのことを伝えてくれました。生徒たちも、時に真剣に、時に立ち上がって盛り上がりながら、江頭さんのステージを堪能していました。普段なかなか目にするのでできないプロの音楽ステージを鑑賞し、とても充実した時間を過ごせたようです。

来年の芸術鑑賞会は古典芸能が予定されていますのでお楽しみに！



第41回 衛生看護科戴帽式

10月15日（水）、戴帽の儀をとりおこない、衛生看護科2年生20名は看護の道を歩みはじめる決意を新たにいたしました。看護師を目指すひとりとして、憧れのナースキャップとハンカチーフを戴いたことに感激すると同時に、実際に患者様と向き合うという重い責任を感じたひとときだったと思います。看護師という仕事の責任の重さを忘れることなく、また実習生としての本分をわきまえた謙虚な気持ちで実習に励んでもらいたいと思います。最後になりましたが、参列していただいた来賓の方々や保護者の方々には、心よりお礼申し上げます。

これまで一緒に学んできた20名全員で戴帽式を迎えることができ本当に良かったです。病院実習は不安や緊張でいっぱいですが、今まで御指導いただいた先生方や家族に感謝しながら患者様のため、自分の夢を実現させるために一生懸命頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

（生徒感想より）



学校説明会

10月9日（木）に平成26年度「五島高等学校学校説明会」を行いました。五島高校の現状報告の他に、来春の入試に関する説明をおこないました。毎年、中学校3年生のみなさんの進路選択の一助としていただくため、本説明会を行っています。今年もたくさんの中学校の先生方に参加いただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。

現在、各中学校の学校説明会において、五島高校の説明をさせていただいております。また11月9日（日）には第2回のスポーツコースオープンスクールを本校で、13日（木）には、保護者向け学校説明会（生徒のみなさんも大歓迎です）を本校メモリアルホールにて実施いたします。このような機会を通じて、五島高校をアピールしていきたいと考えています。中学校3年生のみなさん、五島高校と一緒に頑張りましょう！



第1年の保護者のみなさまへ

1学年主任 瀧上 透

9月30日に行われた学年PTA・学級懇談会では、平日開催にも関わらずご出席いただいた保護者の皆さん、本当にありがとうございました。「保護者と教師が共に学び考える機会」となることを目標に、学年副委員長の小田様による保護者代表挨拶で開会しました。福岡カレッジ・オブ・ビジネスより進路ガイダンス部長の横山正裕先生による講演では、「変化の時代、企業が求める人材とは」というテーマのもと、たくさんの具体例やユーモアを交えながらわかりやすくお話していただき90分があっという間に過ぎました。「会社のために何ができるか」をはっきりと主張できる力、姿勢を正す、ミスしたらメモを取るなどすぐにも日常生活に取り入れられる大切なものをたくさん教えていただきました。今後も保護者と教師がともに学びながら子どもたちの成長を見守っていきたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

福江みなとまつり

五島の秋晴れの中、本年は10月18日（土）に福江みなとまつりに参加しました。長崎国体の関係で本年は参加者が例年よりも少なく生徒、保護者、職員で力を合わせて約150人で祭りを盛り上げました。

生徒が主体となり壮大なねぶたを一生懸命曳き、吹奏楽部のマーチング、サンバ、校歌の演奏に感動を覚えました。来年のねぶたも期待できるでしょう。

ご協力頂いた保護者の皆様・職員の方々、本当にありがとうございました。



2学年保護者の皆様へ

第2学年主任 久保田幸成

9月30日に実施された学年PTA・学級懇談会には、平日にもかかわらず、多くの保護者の皆様にご出席いただき、ありがとうございました。

学年会では、森学年委員長にご挨拶をいただいた後、近畿日本ツーリスト九州長崎支店の中村様より修学旅行について、各担当職員から現2学年生徒の成績状況や新課程入試についてや生徒指導に関するお願いをお伝えしました。高校入学から1年半経過した「折り返し地点」で私達は何を考えるべきなのかをお話しし、お子様の学校での現状と今後の課題、そして2学年の今後の指導方針について、保護者の皆様にご理解いただいたことと思います。今後も保護者の皆様とスクラムを組み、お子様の目標達成や進路実現に向けて進んでいきたいと思っております。お子様は学習と部活動の両立に励んでおりますので、ご家庭でもひと声かけていただき、頑張る力を送って下さい。また、学級懇談会では、保護者間や担任との貴重な情報交換ができました。保護者の方のお話を参考にさせていただき、お子様の成長へつなげていきます。

第3学年PTA&センター試験100日前集会

第3学年主任 宗田将平

10月9日（木）15：15から、多くの保護者の皆様に集まっていたいただき、学年PTAを行いました。校長先生の挨拶、学年の現況報告（学年主任 宗田）、進路指導部からの説明（進路指導主事 阿比留）という内容でしたが、これから受験までの流れが確認できたものと思います。これからの佳境です。生徒、保護者、教師ともに大変な時期にさしかかりますが、力を合わせて頑張りましょう。そして、学年団一同、最後の最後まで（後期入試まで）進路指導をしますので、どうぞよろしくお祈りします。

その後、16：00からセンター試験を受験する生徒を対象にセンター試験100日前集会を行いました。保護者の皆様もたくさん残っていただきました。ありがとうございました。

校長先生からの言葉に続き、保護者を代表してPTA副会長の山下克也様に挨拶をいただきました。そして、学年主任からの言葉、最後に生徒を代表して、3年4組の中路怜音君が決意表明を行いました。「これまでの自分は、本当にダメでした。しかし、今の私は変わりました。目標が決まったからです。絶対に合格してみせます。来年の春、皆で合格して笑いましょう。」という言葉に、センター試験まで残り100日を全力で過ごす決意ができたのではないのでしょうか。我々教職員も全力で頑張りますので、力を合わせて頑張りましょう！

これからは、焦りも出てくると思いますが、クラスや学年のみんなで励まし合い、刺激し合い、全力を出し尽くしてほしいと願っています。

「受験と叫ぶな人生と思え」3年生の皆さん、受験も人生の一部です。丁寧に生きていきましょう！！

